

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300592		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホーム 高砂		
所在地	徳島県阿南市那賀川町芳崎366-1		
自己評価作成日	平成22年4月6日	評価結果市町村受理日	平成20年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip_infomationPublic.do?JCD=3671300592&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年4月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の有する力を十分に活かし、声かけや見守りに重点を置き、本人のペースで生活できるよう心がけて支援している。利用者が過ごしやすいうように、家具や食器類など入居前から使用しているものを持ち込んでもらっている。法人内に病院や他の介護サービス事業所があり、不調時の対応や他施設への入所などの対応が円滑に図れるように努めている。職員は月1回、法人内で勉強会を行って、知識の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は排泄チェックシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけや誘導によって失禁回数を少なくするよう工夫している。個々のサインを把握することで全職員が連携し、トイレで排泄できるように支援している。また、生活習慣のアセスメントを行い、ホームでの規則正しい生活を送ることにより排泄の自立支援に努めている。職員は自らの資質向上のため、月2回勉強会を開催し、技術や知識を身につける機会を設けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に全職員が理念を唱和している。職員一人ひとりが日々理念にそった支援ができるよう取り組んでいる。	事業所独自の理念をつくり、玄関やスタッフルームに掲示している。ミーティング時に、理念を唱和し、職員間で話し合いの機会をもってケアの統一が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には近隣を散歩し、近所の方と挨拶や会話などを行っている。	運営推進会議の参加者から地域の行事や情報を得て、積極的に参加している、また、事業所の行事に地域の方にも参加していただいている。日ごろから挨拶を交わしたり、話をするなどして交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に数回、地域の自治会に参加して、利用状況やいろいろな話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回、開催している。家族や地域包括支援センター職員が参加し、意見や要望をいただきサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催されている。事業所内での生活状況や行事の報告を行い、家族や地域の方、地域包括支援センター職員からの意見や要望をサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の指導や監査を受け、適切なアドバイスをもたらしている。問題があれば相談させていただき協力関係を築くよう努めている。	市の担当者とは日ごろから事業所の状況を報告し、適切なアドバイスや指導を受けるなど協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、理解できるよう努めている。また建物の二階にユニットがあり階段があるため、玄関はオートロックになっている。日中など見守りが十分にできる時には開放している。	身体拘束をしないケアについて勉強会を行い、全職員が正しく理解して取り組んでいる。事業所は建物の二階にあるため、玄関はオートロックになっているが、日中は開放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、常に職員が利用者の尊厳を守るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、那賀川ユニットに成年後見制度を利用されている方がいる。その方の利用開始時に勉強会を行い、今後においても活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明、入居後のリスク等を伝え理解を求めている。また解約時に経緯の説明を必ず行っている。また他施設の紹介・説明などを行い理解や納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見や要望を聞いている。その際、地域代表の方も参加している。それらを運営に反映できるように努めている。	運営推進会議や家族の来訪時に声をかけをして積極的に意見や要望を聞くように努めている。出された意見や要望を全職員で話し合い、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、ミーティングや個別面談の機会を設け、職員の意見が反映できるように努めている。	管理者は常に気を配り、職員とのコミュニケーションを大切にしている。ミーティングや個別相談の機会を設け、職員の気づきや要望を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、自己評価を取り入れている。また、資格手当を支給している。法人内で資格取得に向けた勉強会なども開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職務を通じた人材育成や法人内での勉強会を月一回設けており、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所と交流や連携を図り、情報収集や勉強会を行うことでサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談を行い、生活状況や思いを聞き取っている。本人の希望にそって、安心した生活を送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況や困っていること、不安なこと、思いなどを聞いている。また事業所の雰囲気やサービス内容の説明を行った後、利用の確認を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の状況や希望、思い等を聞き取り、必要な支援を見極めるとともに状況に応じて関連施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることに着目し、職員と一緒にいたり、また教えていただくなどして、一人ひとりが思いや生活歴を反映できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで日々の様子を報告し、本人の思いなどを伝えている。家族とともに考え、相談できる関係を築いていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に行ったり友人と連絡が取れるようにするなどの支援を行っている。	これまでの生活が継続できるよう、馴染みの美容院に行ったり、友人との交流を支援している。買い物や外泊も自由にでき、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性や相性などに配慮し、孤立せずにとともに楽しめるようレクリエーションや作業をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の施設サービス利用時や入院時に、情報の提供を行っている。また施設や病院に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思や希望を尊重できるように努めている。また本人からお聞きすることが困難な場合には、生活の様子をよく観察し思いを汲み取れるように努めている。	日ごろの関わりの中で、利用者の行動や表情から思いを把握し、本人の希望にそった支援ができるように努めている。意思疎通の困難な場合には、家族等から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から話を聞くなどしてアセスメントを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に何ができるのか、どのようなことを好まれるかなどその方の個性を大切にしている。また日々の状態を観察し全職員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き、介護計画に取り入れることができるように努めている。	利用者の思いや家族の意見を反映し、職員間で話し合っ本人本位の介護計画を作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に介護計画を挟んで記録している。また申し送り時に情報を共有し、より良いケアの実施、介護計画の見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の行事に参加したり、併設事業所の器具を使用し、リハビリ等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や地域の行事にも参加できるように民生委員と連携している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に希望を聞き、納得が得られれば、協力医療機関の医師がかかりつけ医となり、毎週水曜日にかかりつけ医による訪問診療を行うなど、適切な医療が受けられるように支援している。	週1回、母体法人の医師による訪問診療があり、適切な医療が受けられる体制ができている。かかりつけ医や希望する医療機関に受診できるよう家族と協力して通院支援を行うなど、柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に状態変化や異常があれば、すぐに看護職に伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携により情報の共有や相談が円滑にできる環境を築き、利用者や家族の負担軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に本人や家族に重度化した場合の説明を行っている。また職員や医師とともに支援方法について検討しながら取り組んでいる。	入居前に本人や家族に重度化した場合の対応について説明している。家族や医療関係者、職員が方針を共有し、協力しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、法人内で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。避難訓練を行っているが、地域住民との合同訓練などは行っていない。民生委員に協力を依頼し、検討している。	マニュアルを作成し、年3回避難訓練を実施している。地域住民との合同訓練などは、行われておらず、協力体制づくりは十分ではない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に常に気をつけるように指導している。職員間でも相互に注意できるようにし、常に意識するように努めている。	契約書にプライバシー保護に関して明記している。利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしない等人格尊重を常に意識するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できる環境づくりに努めている。意思表示が困難な方に対しては職員が日ごろの生活の中から思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の状況に応じて声かけや介助を行っている。馴染みの美容院に行く方や、家族が散髪されている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理や準備を行い、楽しく食事できるように努めている。	利用者一人ひとりの力を活かしながらお盆やテーブル拭き、下膳、後片付けなどを手伝ってもらっている。楽しく会話をしながら食事ができる場面づくりがされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を把握している。食事の形態や好みに合わせて個別にメニューの変更を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	吉野川ユニット		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンやサインを把握し、できるだけトイレで排泄できるように支援している。	チェックシートを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけや誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と食物繊維の多い献立で食事を提供している。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者のタイミングで入浴できるように努めている。	利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。入浴を好まない利用者には声かけの方法やタイミングを工夫し、入浴を楽しめるよう努めている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に配慮している。夜間、眠れない時などには職員とともに過ごしていただくなどの支援をしている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどのような薬を服薬しているか薬の一覧表を作成し、職員が理解できるように努めている。服薬ミスがないように職員がチェックや介助を行っている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや作業、家事を行うことで、生きがいをもって楽しく生活できるよう支援している。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望にそって家族や職員とともに外出できるよう支援している。	散歩や買い物など利用者のその日の希望にそった外出を支援している。四季折々の行事にも状況に応じて、家族や職員と一緒に参加する機会を積極的ににつくっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には利用者自身が支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自由に電話をかけたり、携帯電話の所持についても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度には常に気を配り、快適に暮らせるよう配慮している。また、玄関やホールには季節を感じるができるように装飾を施している。	事業所内は天井が高く広さもゆったりとして明るい。食堂は利用者の様子が一目でわかるように配置されている。ベランダにはベンチが置かれ、洗濯物をたたんだり自由にくろぎゆったり過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり、テラスにベンチを置くなどし、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた馴染みの品を持ち込み、安らぎを得ることのできる雰囲気を出せるように努めている。	居室には思い出の品や写真が飾られ、使い慣れた品を持ち込んでいる利用者もいる。一人ひとりの身体能力に合わせてベッドや布団で寝起きすることができ、その人らしく居心地のよい居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身の部屋がわかりやすいように表札を付けるなど状況に応じて工夫するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に全職員が理念を唱和している。職員一人ひとりが日々理念にそった支援ができるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日には近隣を散歩し、近所の方と挨拶や会話などを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に数回、地域の自治会に参加して、利用状況やいろいろな話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回、開催している。家族や地域包括支援センター職員が参加し、意見や要望をいただきサービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の指導や監査を受け、適切なアドバイスをもらっている。問題があれば相談させていただき協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、理解できるよう努めている。また建物の二階にユニットがあり階段があるため、玄関はオートロックになっている。日中など見守りが十分にできる時には開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、常に職員が利用者の尊厳を守るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方がいる。その方の利用開始時に制度について勉強会を行い、今後においても活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明、入居後のリスク等を伝え理解を求めている。また解約時に経緯の説明を必ず行っている。また他施設の紹介・説明などを行い理解や納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見や要望を聞いている。その際、地域代表の方も参加している。それらを運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、ミーティングや個別面談の機会を設け、職員の意見が反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、自己評価を取り入れている。また、資格手当を支給している。法人内で資格取得に向けた勉強会なども開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職務を通じた人材育成や法人内での勉強会を月一回設けており、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所と交流や連携を図り、情報収集や勉強会を行うことでサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談を行い、生活状況や思いを聞き取っている。本人の希望にそって、安心した生活を送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況や困っていること、不安なこと、思いなどを聞いている。また事業所の雰囲気やサービス内容の説明を行った後、利用の確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の状況や希望、思い等を聞き取り、必要な支援を見極めるとともに、状況に応じて関連施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることに着目し、職員と一緒にいたり、また教えていただくなどして、一人ひとりが思いや生活歴を反映できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで日々の様子を報告し、本人の思いなどを伝えている。家族とともに考え、相談できる関係を築いていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に行ったり友人と連絡が取れるようにするなどの支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性や相性などに配慮し、孤立せずにもに楽しめるようレクリエーションや作業をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の施設サービス利用時や入院時に情報の提供を行っている。また施設や病院に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思や希望を尊重できるように努めている。また本人からお聞きすることが困難な場合には、生活の様子をよく観察し思いを汲み取れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から話を聞くなどしてアセスメントを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に何ができるのか、どのようなことを好まれるかなどその方の個性を大切にしている。また日々の状態を観察し全職員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き、介護計画に取り入れることができるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に介護計画を挟んで記録している。また申し送り時に情報を共有し、より良いケアの実施、介護計画の見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の行事に参加したり、併設事業所の器具を使用し、リハビリ等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や地域の行事にも参加できるように民生委員と連携している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に希望を聞き、納得が得られれば、協力医療機関の医師がかかりつけ医となり、毎週水曜日にかかりつけ医による訪問診療を行うなど、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に状態変化や異常があれば、すぐに看護職に伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携により情報の共有や相談が円滑にできる環境を築き、利用者や家族の負担軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に本人や家族に重度化した場合の説明を行っている。また職員や医師とともに支援方法について検討しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、法人内で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。避難訓練を行っているが、地域住民との合同訓練などは行っていない。民生委員に協力を依頼し、検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に常に気をつけるように指導している。職員間でも相互に注意できるようにし、常に意識するように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できる環境づくりに努めている。意思表示が困難な方に対しては職員が日ごろの生活の中から思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の状況に応じて声かけや介助を行っている。毎日、自分で化粧をしている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理や準備を行い、楽しく食事できるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を把握している。食事の形態や好みに合わせて個別にメニューの変更を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時々失禁される方もいるが、全員の方がトイレでの排泄が自立できている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と食物繊維の多い献立で食事を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在入浴に関する希望があり入浴の順番を決めさせていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に配慮している。夜間、眠れない時などには職員とともに過ごしていただくなどの支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどのような薬を服薬しているか薬の一覧表を作成し、職員が理解するように努めている。服薬ミスがないように職員がチェックや介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや作業、家事を行うことで、生きがいをもって楽しく生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望にそって家族や職員とともに外出できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には利用者自身が支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自由に電話をかけたり、携帯電話の所持についても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度には常に気を配り、快適に暮らせるよう配慮している。また、玄関やホールには季節を感じることができるように装飾を施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり、テラスにベンチを置くなどし、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた馴染みの品を持ち込み、安らぎを得ることのできる雰囲気を出せるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身の部屋がわかりやすいように表札を付けるなど状況に応じて工夫するよう努めている。		